

演習Ⅱ

科目ナンバリング SEM-302

必修 2単位

谷崎 敦彦

1. 授業の概要(ねらい)

本ゼミの最終目的は、将来、日本のスポーツ業界を担う人材を育成すること。「スポーツマネジメント」の深淵を系統的に学ぶ。一昨年の「ラグビーW杯」本年の「東京五輪開催」に向けて益々注目が集まる日本の「スポーツビジネス界」。本ゼミではスポーツの現場に起こり得る様々な課題を自分の「知識」、「理論」、「感性」を用いて自分なりの最適解を求めて行く過程を学ぶ。具体的には毎授業にてメディアを通じて報道されたプロスポーツ組織の活動をテーマとして小グループに分けた班毎が「課題」を特定し、①「現状認識」②「課題抽出」③「最適解の提示」を含めたプレゼンを行い、皆で討議を重ねる。所謂「ラーニング スタイル」を適用する。皆で討議を重ね、ある方向性を導き出す醍醐味を体験的に学ぶ。秋期導入期に合宿を実施する。春期の復習の他、予め規定された「テーマ」をグループ毎に討議し、皆の前で発表する機会を経てプレゼンテーション技能・コミュニケーション能力の向上を図る。最終的には学内外で開催される「発表会」等にてその研究課題を発表することを目的とする。

秋期に於いては特にスポーツ現場で実際に業務に従事している社会人を囲む会を開催し、対話を通じて都度「スポーツビジネス」の要諦を学ぶことを主眼に置く。

2. 授業の到達目標

講義を受ける受動的な「知識」から模範解答を得るのではなく、自己の過去の経験、推察力、感性などを駆使し、(その時点での)最適解を導き出すこと＝「ラーニング」(求心的学習法)の概念を毎授業を通じて理解する。ゼミ員全てが大学内外の「プレゼン」の場で発表を行えるレベルを目指す。「スポーツマネジメント」の基盤となる「経営学の基礎」についても夏合宿以降 モデルケースを用い習得する。その上でJリーグ プロ野球各チーム・球団の「財務諸法」「組織図」「戦略案」などを個別に読み取れるスキルを養う。*秋期に於いては数回2組に分けた「ディベート」を行い、個人の「討論」に関わるスキルアップを図る。

3. 成績評価の方法および基準

出席：毎回の出席と夏期(9月初旬)の合宿参加

レポート：期中に2回の課題レポート提出

試験：期中に2回の試験結果

ディベート：期中に数回行うディベートの結果

期末に行う班毎の研究発表・ゼミへの貢献度などを総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

小林至 『スポーツの経済学』

参考文献

玉木正之 『スポーツとは何か』

5. 準備学修の内容

毎回紹介する参考文献の熟読が前提。絶えず文章化することにより自己の理解度を深めること。

日常の情報の中で「スポーツ理解度」を高める努力をすること。

6. その他履修上の注意事項

(1)時間厳守・・・5分前行動

(2)クイックリスボンズ

(3)アイコンタクト+全員発言

7. 授業内容

- | | |
|--------|---------------------------|
| 【第1回】 | ガイダンス、授業の進め方、評価方法、留意点 |
| 【第2回】 | 日本のスポーツビジネス課題 |
| 【第3回】 | 秋期に於けるプレゼン(2人組)の課題決定 |
| 【第4回】 | 秋期 目標発表・討議 |
| 【第5回】 | 班毎の課題研究(その1) |
| 【第6回】 | 班毎の課題研究(その2) |
| 【第7回】 | ディベート大会(一回目) |
| 【第8回】 | 課題レポート提出 |
| 【第9回】 | 研究発表(その1) *社会人との交流会 |
| 【第10回】 | 研究発表(その2) |
| 【第11回】 | 研究発表(その3) *社会人との交流会 |
| 【第12回】 | スポーツ有識者からの講演 |
| 【第13回】 | ディベート大会(二回目) |
| 【第14回】 | 現代のスポーツ業界に於ける課題に就き「小論文」作成 |
| 【第15回】 | まとめと試験 |